

平成15年度 施策評価表

○総合計画における位置付け等

平成15年 6月 9日記入

基本目標	Ⅲ ▼ 躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32310
政策名 (章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当課	土木部 ▼
基本施策名 (節名)	第3節 円滑な道路交通の確保		土木計画課
施策名	道路渋滞個所の解消	課長名	内田徹

1 施策の概要・目的

安全で円滑な道路交通確保のため、通行上支障となっている課題箇所の解消に向け、交差点の改良事業や鉄道との立体交差事業、橋梁及び踏切道の整備、改良等を行い交通容量の拡大を図るもの。

2 施策の現状

交通量が多く右折レーンのない交差点やバスの運行上支障となるものについて優先的に交差点改良を実施している。過去4年間で5箇所実施しており、今後も即効的手段として整備が望まれる。
また、鉄道との立体交差事業は共和地内で継続して事業を進めており、他の幹線道路との交差点についても渋滞解消に効果が大きいことから事業推進を図る必要がある。踏切道は、狹隘又は交差形状の悪いものについて交通ネック解消のため順次整備を図る。

3 総事業費及び人員

(1) 施策に要している総事業費

182,650 千円……構成事務事業全体の事業費合計(人件費含む)

(2) 市民1人当りの事業費

297 円/人……人口は、**61.6** 万人とした。(平成15年4月1日現在人口)

(3) 全施策中の順位(事業費)

この施策の市民一人当たり事業費は、全123施策のうち、第 **72** 番目です。

(4) 施策に要している人員

2.35 人……構成事務事業全体の人員合計

4 評価指標

指標	指標名および指標式	指標の意図	現状値と目標値			目標
			現状	目標	達成度	目標年度
指標1	ピーク時の通過時間 (整備前の通過時間)÷(整備後の通過時間)	課題箇所を通過するのに要する時間短縮を割合で示す	現状	0 50 100	%	目標年度
			目標			達成度
指標2	ピーク時の渋滞延長 (整備前の渋滞延長)÷(整備後の渋滞延長)	課題箇所の渋滞延長の変化を割合で示す	現状	0 50 100	%	目標年度
			目標			達成度
指標3	主要渋滞ポイントの削減 (改良済み箇所)÷(全課題箇所数) 交差点33箇所(市)、ボトルネック踏切9箇所を全数とする	交差点及び踏切道の課題箇所の改良率を示す	現状	19 箇所 単位	%	目標年度
			目標	42 箇所 単位		達成度

5 必要性…市民ニーズに合っているか、行政需要の変化に対応しているか

道路の渋滞解消は議会や地域市政懇談会でも取り上げられ、幹線道路網が整備されていない状況では即効性の施策である。立体交差は交通量12,000台/日以上又は踏切遮断時間が2時間/日以上踏切道が必要であり、また、交通量が多くかつ右折率が多い交差点(右折レーンが無い)では交通渋滞解消のため改良工事が必要である。その他、前後の道路幅に比べ幅員の狭い踏切道や橋梁はボトルネックとなり交通安全上からも改良が望まれる。

6 有効性…期待される効果があがっているか

渋滞箇所の解消により円滑な交通が確保され、時間短縮や事故の減少、石油エネルギー消費の減少による環境負荷の軽減が図られる。また、バスの定時性確保による公共交通機関の利便性向上につながっている。

7 効率性…費用対効果が優れているか、もっと大きな効果が得られるものはないか

立体交差や交差点改良等は道路渋滞の解消に即効的で、費用対効果が大きい。

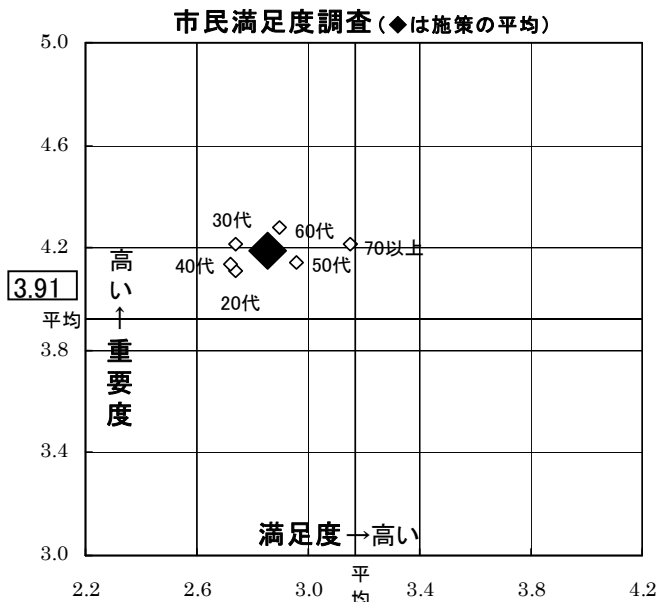
8 市民満足度調査結果からの分析(平成15年度調査)

◆この施策の満足度は、2.852で、調査した51施策の中で50番目です。

◆この施策の重要度は、4.186で、調査した51施策の中で11番目です。

◆この施策の改善要望度は、0.944で、調査した51施策の中で4番目です。

◇年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、40歳代以下の若い層で低くなっています。重要度は年齢による大きな差はみられませんでした。60歳代で最も高く、20歳代で最も低くなっています。



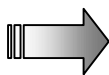
市民満足度調査は、基本施策51項目(節)について調査しています。したがって、上位の基本施策が同じ場合は同じ内容となっています。(「○総合計画における位置付け等」参照)

9 課題…施策を実現するにあたり、課題となっていること等

- ・交差点改良や立体交差事業は事業規模が大きく、多額の費用と用地交渉などから事業完了まで長期間を要している。
- ・鉄道との立体交差や踏切改良事業については鉄道事業者との調整が必要で、特にJRの踏切道改良は他の踏切道の統廃合が課題となっているため非常に困難を伴う。

10 今後の方向性(一次評価)

今後の方向
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充する
<input type="checkbox"/> 現状維持する
<input type="checkbox"/> 見直し



説明及び具体的内容

- ・交差点改良や踏切道改良は安全性向上と交通の円滑化に著しい効果がある。市民満足度調査による重要度が高いわりには満足度が低いため今以上に事業の拡充を図る。
- ・立体交差事業は改良箇所のみならず周辺道路の渋滞緩和に大きな効果があるため、現在の事業箇所の完成を目指すとともに、今後、計画的に新たな立体交差事業を進める。
- ・道路整備による交通容量拡大と同時に自動車からバスなどの公共交通機関への交通手段の転換や、時差出勤など自動車の利用方法に関するソフト施策の充実による対策も必要である。

11 2次評価

説明

<input checked="" type="checkbox"/> A	交差点改良や立体交差事業などの公共事業については今後も計画的に進めて行くこと。また、公共交通機関の利用促進や違法駐車に対する市民への啓発活動など、ソフト事業についても強化すること。
<input type="checkbox"/> B	
<input type="checkbox"/> C	

12 外部意見

説明

交差点改良をはじめとした渋滞対策の優先順位を明確にし、積極的に取り組む必要がある。

